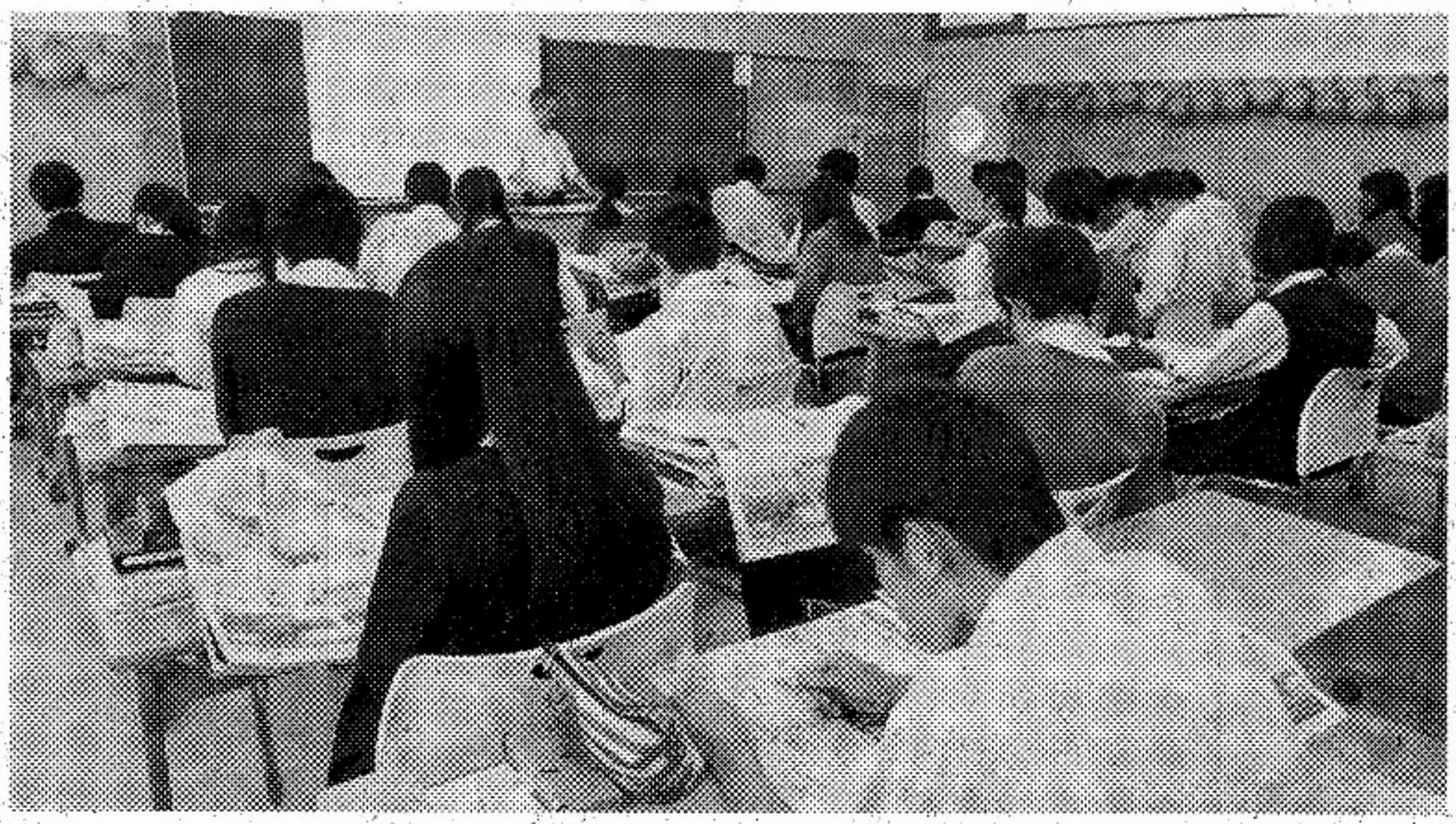
加藤新聞舗と読売東京本社が協力

千葉・日出学園高校で 新聞教材の授業実施

千葉県市川市にある日出学園高等学校で5月11日、15日の両日、地元の新聞販売店・加藤新聞舗と読売新聞東京本社の協力で、高校2年生の「社会と情報」（必修）「デジタルコンテンツ演習」（選択）の授業で、新聞を教材にした授業が行われた。

このうち、5月11日6時間目の「社会と情報」の授業では、当日の読売新聞を配布し、「情報の収集」について生徒たちは学んだ。講師を務めた読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局の高野義雄氏が、自身の記者経験などを話しながら、新聞発行までのプロセスや新聞を気軽に読むコツ、「新聞1部には約20万字、岩波新書約1冊分の情報が載っている」ことなどを解説した。



説明に沿って新聞をめくる生徒たち

また、ネット上の情報との付き合い方に関して、「情報発信できるツールを、今はみんながが持っている時代だからこそ、ネット情報を鵜呑みにしないこと、きちんと消化して理解することが大切」と説明。「新聞には『寄り道』の効用もある」とも語った。

日出学園中学校・高等学校入試広報部長で英語科教諭の石川茂氏によると、同学園の情報授業の開講数は、千葉県内の普通科高校では最も多く、最大6単位の授業を学ぶことができるという。

授業後、小林雅城君と石橋真里奈さんが取材に応じ、「新聞を読んでみようかなと思った」などと感想を語った。二人とも、ニュースは朝ごはんを食べながらテレビで見ることが多いという。

また、「新聞は何度も人の手を経て発行されることがわかった」（小林君）、「新聞社によって見方が違うということに興味を持った」（石橋さん）とも話した。